

平成 30 年度第 1 回学校運営協議会議事録

実施日時 平成 30 年 6 月 9 日（土） 9:30～11:00

実施場所 校長室

出席者 委員 4 名、校長、事務局 3 名（教頭 2 名、事務長）

I. 校長あいさつ

- ・本校の学校運営に関する日頃のご協力に感謝する。
- ・自分自身も 4 年ぶりに校長として本校に着任した。
- ・今年度より学校運営協議会として新たにスタートする。
- ・学校の報告をお聞きいただき、忌憚の無いご意見を頂戴したい。

II. 委員自己紹介

III. 学校運営協議会（事務局）

- ・学校運営協議会実施要項について

昨年度までの学校協議会との違いは、①前年度中に学校運営に関する基本的な方針を前年度に承認すること（第 2 条）、②職員の採用その他の任用に関して意見を述べられること（第 3 条）、などである。また、委員の任期は 2 年で 6 年まで再任可である（第 7 条）。

- ・会長・副会長選出について

会長に浅野委員を、副会長に柏原委員を選出した。

- ・本日の議長に柏原委員を選出した。

IV. 協議

① 平成 30 年度学校経営計画について（事務局）

- ・平成 29 年度第 3 回学校協議会で示したものの若干文言修正したが、骨格については同じである。北淀高等と淀川清流高校とではめざすところはほぼ変わらない。淀川清流高校の「3 本年度の取組内容及び自己評価」の項目から主なところを以下、説明する。
- ・「1（1）」で、モジュール授業のことにふれている。モジュール授業とは、英語・数学・国語で、中学校までの内容を学びなおすために、毎日 30 分、習熟度別に 2 クラスで 3 展開する少人数での取り組み。数学については中学の学習内容をよく理解できている生徒に関して数学 I に取り組んでおり、一部のクラスで 4 展開している。授業によく集中して取り組んでいる。
- ・「2（1）」のキャリア教育については、「産業社会と人間」の時間にグループワークを取り入れて指導している。先日は、小グループに分かれて、専門学校のことを調べて発表する、という取り組みを行った。今後、スマートフォンの使い方や求人票の見方などを学ぶ予定。他に「清流タイム（ST）」と呼んでいる総合的な学習の時間の取組みや、本校独自の取組みである「人生設計学」の取組みなどでキャリア教育を 1 年次からすすめている。2 年次からはそれぞれの進路希望に合わせた取組みを選択科目の中でも実施する予定。また、エンパワメントスクールに配置されるキャリア教育コーディネー

ターを年間 550 時間配置し、生徒の就職や進学をサポートする。

- ・「3（2）イ」の部活動の加入率については、目標 18%としているが、すでに 25%となっている。さらなる部活動の活性化に向け、これからも部活動加入の取組みを行う予定。
- ・「4（1）ウ」の遅刻指導は本校の大きな課題。ひき続き取り組んでいく。1 年では朝のウェイクアップタイム（授業時間扱いである朝の 10 分の取組）で、手帳を副教材として 1 日の予定を確認したり、国語・数学・英語の小テスト、いわゆる脳トレなどに取り組んでおり、遅刻生徒は別室で指導を受けてからクラス教室に入る仕組みにしている。
- ・「4（2）」にある SC（スクールカウンセラー）はエンパワメントスクールになり、昨年度の 10 回から 20 回に倍増した。SSW（スクールソーシャルワーカー）は、昨年度同様、週 3 回程度来てもらっている。
- ・「4（3）イ」の PTA 活動に関して、PTA 活動に保護者の方々がより参加しやすくなるよう、PTA 規約を改正した。
- ・「5（1）（2）イ」の資質向上については、首席が中心になり、初任者育成や授業力の向上に努めている。
- ・「5（3）」の ICT 機器に関しては、1 年教室等に電子黒板が導入され、「活用は苦手」と言っていた教員も画像・動画を使用して授業をするなどの好影響が出てきている。今年度 2 年教室、来年度 3 年教室に導入されるので北淀高校生徒の授業にも活用できる。他にもプレゼンテーションルーム（視聴覚室）の空調、クリエイートルームの ICT 機器、ヘルスサポートルームの運動器具等を整備し、教育環境がいっそう充実する見込み。

② 報告（事務局）

(1) 53 期生（昨年度卒業生）の進路状況について

- ・進学した生徒は 106 名。4 年制大学進学数の延べ人数が増えている。難易度の高い大学をめざして複数の大学を併願する生徒が出てきた。本人の努力とモチベーションの維持、教員のサポート、家庭の後押しが要因。
- ・就職した生徒は 107 名。最終内定率は 100%。生徒のがんばりもあり、求人数も多かった。
- ・経年で比較すると、「その他（進路未決定）」の率が減ってきている。

(2) 遅刻指導について

- ・平成 29 年度は残念ながら増えた。丁寧に指導したが残念。
- ・平成 30 年度 4～6 月を見ると、1 年より 2 年、2 年より 3 年で遅刻は減っている。指導を重ねているが 3 年生の遅刻が多く、就職への影響を懸念している。

(3) 入学時アンケート結果報告

- ・エンパワメントスクール共通のアンケートを今年度より本校でも実施。毎年同じ質問をするので、今後、経年変化を見ていくことができる。
- ・今年度のアンケート結果からは、以下のことが見てとれる。
 - 「基礎から学びたい」というニーズが高い（83%）。
 - 「進学先を自分の意志で決めた」生徒の割合が高い（61%）。北淀高校では保護者や先生の勧めで進学先を決めた生徒が多かった。

「今の自分のことが好き」である生徒の割合が低い（31％）。

「人付き合いが上手でない」と感じている生徒が一定の割合いる（30％）。

「実際に役立つ勉強、進路に応じた選択」に肯定的に回答する生徒が多い（52％、64％）。

「数・英・理・社」に苦手意識を持つ生徒が多い（41～59％）。

進路を意識する生徒が多い（68％）。

中学校にほぼ行けていなかった生徒が9％いる。今、長期欠席している生徒はほとんどいないので、生徒たちはがんばっているといえる。

先生に対して「信用できない」と感じている生徒が24％いる。

こうした意識を持つ生徒たちであることをふまえて指導にあたっている。

<意見等>

（委員）中学校時代ほぼ学校に来ていなかった生徒が高校入学後、なぜ変化が起こったのか、聞いてみたい。

（事務局）私たち自身も関心があるところだが、それぞれの生徒に変化の理由を聞いているわけではない。デリケートなことなので、機会を見てそれぞれの生徒に尋ねてみたい。

(4) クラブ状況について

・現在加入率は25％。目標を達成しているが、もっとクラブ員を増やしていきたい。後援会の支援でクラブTシャツをそろえて、6月フェスティバルでクラブ員が着用して盛り上げていく。特別活動部の教員が今後また、個別に面談を行う。

(5) PTA組織改編について

・北淀と淀川清流が一緒に活動できるよう6月2日に規約を改正。規約の改正に合わせ、参加しにくいという意見が多かった委員会制度を廃止し、行事毎に運営委員会を作って保護者が参加しやすくする。

<質問>

（委員）手帳を使って一日の予定を確認する取組みはとても良い。予定を書くことで自分の動きを自分で確認できる。点検は誰が行っているか。

（事務局）担任や副担任。

（委員）予定を書いたら、ちょっとしたアドバイスをすることが大切。自分が現役の教職員の時に実施し、効果があった。

（校長）多くのエンパワメントスクールで同様の取組みを実施している。記録をしていけば振り返ることもできる。本校もこれまでの生徒手帳を大幅にリニューアルし、日々活用できるようにした。

（委員）勤務している中学校では、面接のある学校を受験する生徒を校長が面接指導をした。勤務校のある地域の中学校は、どの学校も課題がないわけではないが、授業成立ができない学校はなくなった。不登校については中学校の責任も感じるが、家庭の状況も大きい。キャリア教育については中学校でも取り組んでいるが、自発的に学ぶ意欲を持たせるのがなかなか難しく、高

校で報告にあったような実践的な取組みがなされるのはありがたい。

(委員) 1年生のアンケートの自己肯定感については、他国に比べ、日本全体が低めだと思う。自己表現、コミュニケーションの取組みをしていけばよいと思う。保健体育が好きという生徒が多いので、「あったらいいクラブ」といったアンケートを取ってみるのはどうか。「吹奏楽」などの希望が出ると難しいところもあると思うが、楽器の充実を図ってはどうか。以前は体育祭でのオープニングでも演奏をする生徒がいた。

P T Aの規約の改正については、世の中の大きな流れだと思うが、P T Aにしっかり関わることで学校に対する意識を持ってもらえるという側面もあった。行事のみの参加だとお手伝いのみになる懸念を感じる。学校の運営にどうコミットしてもらおうかを考えてもらえればと思う。

(委員) 選択科目で生徒が少人数に分かれていくと思うが、カリキュラム編成はうまくいっているか。

(事務局) 2年次以降の科目選択については今アンケートを取っているところ。これから指導していく。

(委員) 自分が高校生の際は、大学進学のみが想定されている進路指導であった。今は職業選択の情報をたくさん提供する必要がある。

(委員) 卒業後の進路が進学中心であったのは何期頃までか。

(委員) 昭和 50 年代頃まで。

(校長) 昔は高校は同一カリキュラムだったが、今は生徒の状況に合わせて様々なカリキュラムが組まれている。総合学科であれば半分以上の授業を選択できる。本校でも今年度、科目選択のためのガイダンスブックを作成した。進路目標に向けたモデルとなる選択パターンを示したり、個別に助言していく。

(委員) そのようなシステムがあるのはエンパワメントスクールだけか。

(校長) エンパワメントスクールを含む総合学科の高校にこういった仕組みがある。

(委員) 選択科目が増えると 1 講座当たりの受講生徒の人数が少なくなる。最小の開講人数は決めているか。

(校長) まだ人数は決めていないが、決める予定である。

(委員) 以前の総合学科の勤務校では 5 人にしていた。

(委員) 国・数・英では生徒を 6 クラスで 9 グループに分けている、という理解でよいか。

(事務局) その通り。2 クラスごとに 3 展開し、9 クラスで授業を実施している。30 分×3の授業を行っているが、2・3 年は 50 分×2の授業を行っているので、チャイムが鳴る時間も変えている。教室の調整、空調の整備等、校内で工夫を続けている。

(委員) エンパワメントスクールになって予算が増えるということはないのか。

(事務局) 多少増える見通しだが、それでも増えるランニングコストをまかなうのは大変。

(校長) 空調稼働がピークになる夏に、既定の電気使用量に近づいたために事務室で警報が鳴り響くのは本校の夏の風物詩。

(委員) 中学校でも同じ悩みを抱えている。

③保護者宛「意見書」の配付について

(事務局) 保護者から教育活動についての意見があれば、別紙の資料に記載のうえ提出いただくことで学校運営協議会で取り上げるシステムがある。

④本年度の日程について

(事務局) 第2回協議会は、授業を見ていただいた後に実施したいと考えている。

IV. その他

(委員) 食堂の状況を教えてほしい。

(事務局) これまで長きにわたって経営していた業者が、この3月に健康上の理由で廃業された。現在、新規業者を公募手続き中で、今月末に入札を実施し、9月には営業再開の予定。それまでの対応策として、校内におにぎり、パン等を販売する自動販売機を設置している。